０５／０２／０６　　礼拝メッセージ　　近藤修司　牧師

主　　題：生きている信仰と死んでいる信仰
聖書箇所：ヤコブの手紙　２章１４－２６節

私たちはこれまでヤコブの手紙を通して、本物の信仰とはどういうものかを学んできました。真の信仰者は試練の中にあってその試練を喜ぶ者であると１章で教えられました。また、真の信仰者はみことばを実践しようとする者である、そのことも１章で教えられました。前回２章から、真の信仰者は隣人を愛する者である、人をえこひいきしないということを見ました。神が扱うように人を扱う、それが真の信仰者であると。このヤコブのメッセージを私たちが見て行くとき、彼は繰り返し、本物の信仰には必ず行ないが伴うことを教えています。言い方を変えると、信仰の真実さはその行ないによって実証されると言えます。アメリカのブッシュ大統領はこのようなことをテレビのインタビューで言っています。「信仰と生き方とをどうして分けることができるのか、私には判らない。もし信仰が人生において重要なら、それはたましいにいのちに深く浸透しているはずだ。」と。日本ではなかなかこのようなメッセージを聞くことはありません。しかし、彼はテレビで堂々と自分がイエス・キリストを信じ救いに与っていることを話しています。そして彼が言うことは「私は信仰を公にする、なぜならそれは私自身であるから、信仰と行ないとを分けることはできない」です。まさにそのことをヤコブは私たちに語り続けてきたのです。ヤコブはいつも私たちに「あなたの信仰は本物ですか？」と問い掛けます。

ヤコブは２：１４－２６まで「死んでいる信仰と生きている信仰」について話をします。１４－２０節では「死んでいる信仰」について話をするのです。今日はこの箇所を見て行きます。

Ⅰ．死んでいる信仰　　１４－２０節

１．それは何の変化ももたらさない　　１４－１７節

「:14 私の兄弟たち。だれかが自分には信仰があると言っても、その人に行ないがないなら、何の役に立ちましょう。そのような信仰がその人を救うことができるでしょうか。:15 もし、兄弟また姉妹のだれかが、着る物がなく、また、毎日の食べ物にもこと欠いているようなときに、:16 あなたがたのうちだれかが、その人たちに、「安心して行きなさい。暖かになり、十分に食べなさい。」と言っても、もしからだに必要な物を与えないなら、何の役に立つでしょう。:17 それと同じように、信仰も、もし行ないがなかったなら、それだけでは、死んだものです。」

ヤコブはここで死んだ信仰はその人の内に何の変化ももたらさないものだと教えます。というのは、教会の中で恐らく、自分は信じている、救われている、私はクリスチャンだと自称する人がたくさんいたのでしょう。それで、そういう人々にヤコブは「本当にあなたは救われているのか？」と問い掛けるのです。信仰というのはその信じる人を神のさばきから救い出すものです。私たち人間はすべて罪を犯しているので、すべての人間が神のさばきに向かっています。神はそのさばきから私たちを救い出してくださったのです。前回見た通り２：１３で**「あわれみを示したことのない者に対するさばきは、あわれみのないさばきです。」**とあるのは、神のあわれみを受け入れていない人、すなわち、救われていない人には神はあわれみのない、その罪にふさわしい審判を下されるということを教えているのです。ですから、救いというと間違いなく神のさばきから救い出されるものでなければならない、１４節でヤコブは「本当にそれは役に立つ信仰ですか？」と言います。その信仰はあなたを神のさばきから救い出す、そのような働きを為すことができるものですか？と問い掛けるのです。

そして、そのたとえを彼は１５－１６節に挙げています。ここを読むとよく分かります。ヤコブは何を教えようとしているのでしょう？彼が言うことは、物の必要を抱えている人々にことばは全く役に立たないということです。ここにあるようにある人が着るものがなく、ある人は食べるものにこと欠いているときに**「安心して行きなさい。暖かになり、十分に食べなさい。」**と言っても、精神的に少しの慰めになったとしても、彼らが必要としているものはことばではないのです。自分のからだを暖かにする着物であり、自分の腹を満たす食べ物です。それを与えなければ、ことばだけでは空しいではないかということです。つまり、そこに必要のある人がいたときに私たちがしなければならないことは、その必要に実際に答えて行くことです。もしそうでなければ、どんなにすばらしいことを話したとしても、それはその人にとって何の役にも立たないのだと言うのです。行ないが伴わなければ本当のあわれみではないこと、ヤコブは行ないがあなたの心を映し出していると言います。あなたの行ないがあなたの言ったことが本心からのものかどうかを証明するのです。必要を抱えている人に役に立つことは食べ物、着るものを与えること、だから私たちの信仰もそれと同じで、救われていると言ってもそれが本当にたましいの救いをもたらさないのなら役に立たないと言うのです。ですからヤコブはここで読者である当時の人々にも、そして私たちにもあなたの信仰が本物かどうか、あなたの信仰は本当にあなたを罪からさばきから救い出すものであるのかどうかを吟味しなさいと言うのです。ここに書かれていることと同じようなことをヨ

ハネはＩヨハネ３：１７－１８でこのように言っています。**「世の富を持ちながら、兄弟が困っているのを見ても、あわれみの心を閉ざすような者に、どうして神の愛がとどまっているでしょう。:18 子どもたちよ。私たちは、ことばや口先だけで愛することをせず、行ないと真実をもって愛そうではありませんか。」**と、よく似たことをヨハネは語っているのですが、もし本当にあなたが救われているなら、神の愛があなたのうちにとどまっているというなら、彼らの必要に対して行ないをもって答えて行くことが必要だと、つまり、その行ないというものがあなたの中に神の愛が存在していることを現わすのだと言うのです。ヤコブももしあなたの信仰があなたをさばきから救い出すものであるなら、間違いなくあなたには変化が生じるはずだと言います。イエスを信じた者は必ず良い働き、正しい行ないを為して行くのです。そういう変化を神は起こさせてくださるのです。

良い行ない、良い働きというと私たちはどんなことを考えるでしょう？今見てきたように、困っている人に手を差し伸べること、地震や津波などで苦しんでいる人々を助けること、大切なことです。確かに、そのようなことを為している人たちはたくさんおられます。私たちクリスチャンも同じようにそのような必要のある人々に手を差し伸べて行きます。しかし、一つだけ違うとするなら、私たちはそれを私たちのためではなく神のためにするのです。私たちがそれによって誉められるためではなくて、それによって神が誉められることです。山上の説教でイエスは何と言われたでしょう？**「このように、あなたがたの光を人々の前で輝かせ、人々があなたがたの良い行ないを見て、天におられるあなたがたの父をあがめるようにしなさい。」**、マタイ５：１６に記されています。私たちが人々に対して愛を示して行くときに、私たちのような者を罪より救い出し、変えてくださり、用いてくださる神が誉められるために、私たちは働きを為して行くのです。そこに私たちのあるべき動機があるのです。そのような者に私たちは神によって変えられたのです。ですから、エペソ人への手紙２：１０でパウロはこう言います。**「私たちは神の作品であって、良い行ないをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行ないに歩むように、その良い行ないをもあらかじめ備えてくださったのです。」**、パウロが言っていることは、本当に救われた人、本当の信仰者は間違いなく良い行ないをするということです。なぜなら、神がそのように造り変えてくださったからだと。そのことをヤコブもここで教えているのです。ヤコブは決して、良い行ないをしたなら神はあなたの罪を赦してくれて、罪からさばきから救ってくれるとは教えていません。彼は神の恵みによって信仰によって救われるということを話しています。しかし、本当に救われたなら私たちのうちには変化が生まれるのです。神に喜ばれることをしたい、神の栄光を現わすことをして行きたい、そういう動機をもって神が喜んでくださるような働きを始めて行くのです。このような変化が神によってもたらされる、だからヤコブは、そのような変化をあなたのうちに見ないなら、あなたの信仰には問題があると言うのです。確かに私たちは自分自身を振り返るとき、なかなか変わらないなぁと思ったりします。情けないと思うことも多々あります。しかし分かっていることは、失敗は繰り返しても、悲しいことに神の前に罪を犯しても、私たちの心の中に神に喜ばれたい、神を喜ばせることをして行きたいという思いがあるのは、私たちの心が変わったからです。神によって変えられたからです。そのことをヤコブは私たちに訴え続けるのです。あなたの信仰が本物かどうか、よくあなたの心を見てみなさい、信仰はあなたを変えるものだと。もしあなたがイエスを信じると決心した前と今とが何の変化もないとするなら、あなたの信仰は問題がある、その信仰は死んでいる可能性があるというのです。

２．<u>救いをもたらすものではない</u>　　１８－２０節

１８－２０節に「死んだ信仰」の二つ目のことが書かれています。

「:18 さらに、こう言う人もあるでしょう。「あなたは信仰を持っているが、私は行ないを持っています。行ないのないあなたの信仰を、私に見せてください。私は、行ないによって、私の信仰をあなたに見せてあげます。」:19 あなたは、神はおひとりだと信じています。りっぱなことです。ですが、悪霊どももそう信じて、身震いしています。:20 ああ愚かな人よ。あなたは行ないのない信仰がむなしいことを知りたいと思いますか。」

ヤコブがここで訴えることは、あなたがどれだけ大切な真理を知っていたとしても、それだけでは救われない、知っていることと信じていること別だということです。クリスチャンホームの子どもたちがまさにそのいい例です。彼らはどんな質問にもその答えを知っています。だからといって、彼らが皆信じているのかというとそれはわかりません。このことに関してヤコブは悪霊たちを引き合いに出して説明をします。悪霊たちは真実を知っていると１９節で**「あなたは、神はおひとりだと信じています。りっぱなことです。ですが、悪霊どももそう信じて、」**と言います。悪霊たちすなわち、サタンもサタンに従う堕落した天使たちも、ある真実は理解しているのです。それは神はひとりだということです。私たちはそのことを信じていませんでした。この国に生まれ育ってたくさんの神々が存在すると思い込んでいました。しかし、サタンや悪霊たちは言います、神はひとりだと。このサタンたちが私たちに大切なことを教えてくれるのです。神がひとりであることを。しかも彼らが知っていることは自分たちの運命です。１９節の最後に**「身震いしています。」**とあります。なぜ彼らは身震いするのでしょう？恐ろしいことがある

からです。どのような恐ろしいことを彼らは悟っているのでしょう？この身震いするということばは、また私たちに大切なことを教えてくれます。それは地獄が存在するということです。それが現実のものであることを彼らは証明するのです。だから彼らは恐れているのです。自分たちがその地獄に向かっていることが分かっているからです。そしてもう一つ、地獄があるだけでなく、イエスが唯一の救い主であることも彼らは分かるはずです。というのは、たとえば救いがいろいろな方法であるとするなら、彼らもその現実を見てどこかで救われるという希望を見出そうとするかもしれないし、希望を持っているかもしれない、しかし彼らは、イエス・キリストが唯一の救い主でありこの方によってしか救いがないこと、そして自分たちはこの方によっては救われないことが分かっているのです。なぜなら、イエス・キリストは人間を救うために来てくださったのであって、サタンやそれに従った悪霊たちを救うために来られたのではないからです。彼らには救いの希望が全くない、だから、彼らは身震いするのです。地獄という彼らの運命が決まっているからです。ですから、この１９節のわずかなみことばが私たちに教えてくれること、私たちが覚えなければいけない大切なことを悪霊たちは証するのです。しかし、彼らは自分たちには救いがないことを知っているので、人々をだまして惑わすのです。彼らは巧妙にイエスによる救いを否定します。彼らが言うことは、イエスだけが救い主だなんておかしいではないか、救い主は世の中にたくさんいる、どんな宗教を信じてもみんな同じだ、究極的に皆同じところに行くのだということです。そのような偽りを私たちは信じてしまうのです。サタンは神はひとりだと知っているのに、その真実に人々が目を向けないように、その唯一の神を信じないように嘘を広めているのです。

また、サタンたちは聖書の信憑性を否定します。聖書は神のことばではないと言います。もしこれが神のことばだとするなら、人間はこの聖書に従って行くという大きな責任が生じますから、聖書に従って行かないように、聖書は神のことばではない、人間が書いたものだ、聖書の中にはたくさん間違いがある、だから、神のことばだとは信じないのだと信憑性を疑うように働くのです。確かに、聖書はすばらしい、慰めを与えある知恵を与えてくれる、でも、神のことばではないと、どれだけの人がこのようなメッセージを信じているでしょう？残念なことに、教会もそのような嘘にだまされています。多くの教会が聖書の無謬性、つまり、聖書には間違いがないという大切な教えを否定しています。聖書に記されているけれど、それは事実ではないというのです。たとえば、神の創造について、神は６日間ですべてを創造された、ところがそれは科学的に証明しがたいと言って世の知恵を持ち込んで、神は創造されたけれどその後進化したのであると、そのようなことを平気で聖書を使いながらメッセージするなど、どうしてそのようなことが許されるのでしょう？私たちが手にしているみことばは神が与えてくださったものです。神のメッセージです。ここには間違いがないことを私たちは確信しています。もし、そうでないなら、私たちの信仰の土台自体が崩れて行くのです。しかし、感謝なことに完全な神は私たちにご自身の完全なメッセージをくださった、ここに私たちは立つことができるのです。この聖書が言ったことに私たちは信頼を置いて生きて行くことができるのです。これは神のことばだからです。しかし、残念なことにそのように信じない人がたくさん出てきているのです。

サタンは聖書の信憑性を否定するだけでなく、また同じように、創造も否定します。私たちは創造されたのではなく進化した者であると。なぜなら、私たちが創造された者であると認めてしまえば、そこには当然創造主に対する自らの責任が生じるからです。それを認めてしまうと、私たちは自分の好きなように生きて行けないのです。本質的に私たちは自分の好きなように生きて行きたいのです。そのような生き方を進めて行くためには、私たちは偶然誕生したのだというのは好都合なのです。私は造られたとなると、何のために造られたかということを考えます。聖書は目的を教えてくれます。ではその目的に従って行くのか、従って行かないのか、選択が出てきます。私たちの選択は決まっています、神に従うのではなく、自分の好きなように生きて行く、そして、その歩みをして行くために進化論というのは非常に都合が良いのです。

サタンはまた同じように、死後のさばきを否定します。今が楽しければそれでいいじゃないか、今だけだからと。先に見たように、サタンは神がひとりだということも知っている、さばきがあることも知っている、それを知っていながら人々を惑わせて自分たちが地獄に行くゆえに、人々を同じように永遠のさばきへ巻き込もうとするのです。私たちはそのようなものにだまされてはならないのです。そのような悪魔の策略に対してしっかり目を開いて、正しいことをしなければなりません。

サタンや悪霊たちと私たちが異なっている点は何でしょう？私たちと彼らとは違うのです。先ほども見たように、彼らには何の希望もありません、救いのチャンスがないのです。しかし感謝なことに、私たち人間には救いの希望があります。神にどれほど逆らってきたとしても、今どれほど逆らっているとしても、神はなおも私たちに救いの手を差し伸べてくださっている、イエス・キリストはもう私たちに罪の赦しを与えるために身代わりとなって十字架で死んでくださった、もう救いは備えられたのです。そして求める者に神はその救いを与えてくださるのです。これは本当に感謝なことです。サタンは自分

たちの運命を知って身震いしています。私たちも自分の運命を知るべきです。自分の永遠をどこで過ごすことになるのかをしっかり知るべきです。そして、今あなたが神に逆らっているゆえに永遠のさばきに向かっているとしても、あなたにはまだ希望があるのです。神はそこからあなたを救い出そうとしてくださっているのです。私たちは身震いする必要はないのです。私たちは希望のない信仰をもっているのではないのです。

ヤコブはここで知っているだけでは救われない、それだけでは不十分だと教えてきました。２０節に**「ああ愚かな人よ。あなたは行ないのない信仰がむなしいことを知りたいと思いますか。」**と、愚かでむなしいと言います。なぜなら、その人たちは偽りを信じて永遠の滅びへと向かっているからです。彼らは自分たちは救われていると思っています、いろいろなことを知っているからと。しかし、私たちが自分に問い掛けなければいけないことは、私が信じている信仰というのは私を罪のさばきから救うものなのかどうか、私に永遠のいのちを与えてくれるものなのかどうか、そのことをしっかり覚えなければならないのです。なぜなら、信じていると言いながら救いに与らなかった人がたくさんいるからです。そのことをイエスが話しておられます。ヨハネの福音書８章をご覧ください。８：３０**「イエスがこれらのことを話しておられると、多くの者がイエスを信じた。」**とあります。続いて**「:31 そこでイエスは、その信じたユダヤ人たちに言われた。「もしあなたがたが、わたしのことばにとどまるなら、あなたがたはほんとうにわたしの弟子です。:32 そして、あなたがたは真理を知り、真理はあなたがたを自由にします。」**と、イエスはこのようなことをイエスを信じた人々に言ったのです。信じていると告白している人々に言われたのです。変なことを言われましたね？私たちが考えることは、信じた人にはイエスは「あなたがたは天国に行けます、罪は赦されました」と言われるはずと、しかし、そのようには言われなかったのです。イエスは、もし本当にあなたがたが私の弟子なら、言い換えるなら、私を信じて救われているなら、あなたがたはわたしのことばにとどまる、それが本当にあなたが私の弟子なのか、救われているかどうかを明らかにするということを言われたのです。その後を見てください。**「:33 彼らはイエスに答えた。「私たちはアブラハムの子孫であって、決してだれの奴隷になったこともありません。あなたはどうして、『あなたがたは自由になる。』と言われるのですか。」:34 イエスは彼らに答えられた。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。罪を行なっている者はみな、罪の奴隷です。:35 奴隷はいつまでも家にいるのではありません。しかし、息子はいつまでもいます。:36 ですから、もし子があなたがたを自由にするなら、あなたがたはほんとうに自由なのです。:37 わたしは、あなたがたがアブラハムの子孫であることを知っています。しかしあなたがたはわたしを殺そうとしています。わたしのことばが、あなたがたのうちにはいっていないからです。:38 わたしは父のもとで見たことを話しています。ところが、あなたがたは、あなたがたの父から示されたことを行なうのです。」 :39 彼らは答えて言った。「私たちの父はアブラハムです。」イエスは彼らに言われた。「あなたがたがアブラハムの子どもなら、アブラハムのわざを行ないなさい。:40 ところが今あなたがたは、神から聞いた真理をあなたがたに話しているこのわたしを、殺そうとしています。アブラハムはそのようなことはしなかったのです。:41 あなたがたは、あなたがたの父のわざを行なっています。」彼らは言った。「私たちは不品行によって生まれた者ではありません。私たちにはひとりの父、神があります。」:42 イエスは言われた。「神がもしあなたがたの父であるなら、あなたがたはわたしを愛するはずです。なぜなら、わたしは神から出て来てここにいるからです。わたしは自分で来たのではなく、神がわたしを遣わしたのです。:43 あなたがたは、なぜわたしの話していることがわからないのでしょう。それは、あなたがたがわたしのことばに耳を傾けることができないからです。:44 あなたがたは、あなたがたの父である悪魔から出た者であって、あなたがたの父の欲望を成し遂げたいと願っているのです。悪魔は初めから人殺しであり、真理に立ってはいません。彼のうちには真理がないからです。彼が偽りを言うときは、自分にふさわしい話し方をしているのです。なぜなら彼は偽り者であり、また偽りの父であるからです。:45 しかし、このわたしは真理を話しているために、あなたがたはわたしを信じません。」**、イエスはこの話をイエスを信じたユダヤ人たちに話しているのです。このわたしは真理を話しているのにあなたがたはわたしを信じません、あなたがたはあなたがたの父である悪魔から出た者です、と言われます。彼らはイエスを信じた者であるはずなのになぜでしょう？続いて、**「:46 あなたがたのうちだれか、わたしに罪があると責める者がいますか。わたしが真理を話しているなら、なぜわたしを信じないのですか。:47 神から出た者は、神のことばに聞き従います。ですから、あなたがたが聞き従わないのは、あなたがたが神から出た者でないからです。」**と、ここでもイエスが言われたことは、本当にわたしを信じて救われている人は神のことばに従って行こうとする人だということです。ですから、ヤコブの手紙で私たちは繰り返し本当の信仰には行ないが伴うということを聞いてきましたが、それはイエスが話されたことなのです。本当の信仰は必ず行ないが伴う、本当の信仰は変化をもたらす、その人は神のみことばに従って行こうとする、神の教えておられるみこころに従って行こうとする、そして、そのような行ないがその人の信仰が本物であることを証して行くのだということをここで話されているのです。

ですから初めに戻って、教会の中で私は信仰をもっています、私は救われています、私はクリスチャンですと言い続ける人がたくさんいたのです。その人々に対してヤコブが「その信仰は本物ですか？」

と問い掛けたというのは想像のつくことです。教会の中に、そのように告白をしているけれど何の行ないも見られない人たちがいたからです。そしてヤコブは、本物の信仰はどういうものなのかを繰り返し教えることによって、だれも誤解しないように、だれも救われていないのに救われているなどと、偽りの希望をもって地獄に行かないようにと、このメッセージを与えるのです。

ここまで来るとやはり私たちが考えるのは、私の信仰は本物かどうかです。私たちの永遠がそこに係っているからです。私たちは今生きていても次の瞬間は分からないのです。また明日があるとサタンは言うかもしれない、しかし、私たちが分かっているのは明日がないかもしれないということです。だから、私の永遠に関しては今この生かされている瞬間にきちんとしておかなければいけないのです。

私たちの罪が赦されるために何をすればいいのでしょう？私たちは何度も学んでいることですが、どうしてもそれだけを学んでおかなければ先に進むことができません。ヤコブが望んでいるように私たちが望むことは、ここにおられるすべての人がこの救いからもれることがないように、自分は天国に行けると思っていたのに実は行けなかったというようなことがないことです。どうすればいいのでしょう？まず、私たちは自分自身のことを正しく知ることが必要です。自分は神の前に罪人であることをしっかり認めなければなりません。自分を人と比べることは止めて神がどうご覧になっているか、神の目にどのように映っているのか、それを見て、神さま、私は汚れきっています、罪に染まりきっています、私のうちには善がありません、少しいいことをしてもすぐに悪い思いが出てきますと。神は私たちの動機まで知っておられますから、パウロが言ったように、私は罪人のかしらですと言うしかないのです。ここがスタートラインなのです。そして、私たちはどんなに努力しようと頑張ろうと自分で自分を変えることはできません。神が要求されているような完全なきよい者になることはできません。だから、救いに関して自分の力や知恵ではまったくチャンスがないのです。悪霊たちと同じように私たちも、自分の力でどうすることもできない、今永遠の地獄に向かっているその事実を覚えるとき、私たちは身震いするのです。しかし、希望があります。このような者に救いがもたらされたのです。救い主が来てくださったのです。イエスが私の代わりにさばきを受けてくださった、十字架で私の代わりにイエスはいのちを捨ててくださった、私が受けるべき罰をイエスが代わって受けてくださった、ここに希望があるのです。この事実を知ったとき私たちは、イエス・キリストが私の救い主であること私の神であることを信じます、この方が私の主人として従って行きますと決心するのです。そのときに私たちは神の約束をいただくのです、罪の赦しをいただくのです。

あなたは自分がどうしようもない罪人であることが分かっておられますか？あなたのどこを見ても、あなたのうちには救われる価値がありません。あなたは自分の心を見たときに、地獄こそが自分にふさわしいと気付くはずです。そして、あなたは自分で一生懸命頑張ってみたところで、神の要求される正しいきよいその基準に到達することはできないのです。私たちの力、思い、意志ではこの救いに至ることはないのです。しかし、イエス・キリストによってそれは可能です。だから私たちは、イエスさま、私はあなたを私の神、私を救ってくださる救い主と信じ、新しい主人としてこれから従って行きます、どうぞ、私のすべての罪を赦してください、約束されたその救いを与えてくださいと、その信仰によって神は私たちに救いをくださるのです。これがみことばが私たちに教えてくれることです。

心から、イエス・キリストをあなたの救い主として受け入れたかどうかです。そして、それが本物であるかどうかはあなたのうちにどのような変化が起こっているのか、そのことが明らかにするのです。どうぞ、自らを吟味してみてください。そして、あなたの信仰が死んだ信仰でないことを心から願います。生きている信仰、それはあなたを変えます。生きている信仰、それはあなたに罪の赦しと永遠のいのちを与えます。その信仰があなたのものであることを心から願います。